第６項　問題行動と友人への同調行動との関連

①問題行動の実体験の有無と友人への同調行動

高校生の友人への同調行動と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の実体験（「ある」「ない」の2水準）との関連を検討するため、友人への同調尺度得点を従属変数とした2×2の2要因分散分析を行った。友人への同調尺度得点が高いほど、友人への同調性が強いことを意味している。有意な結果のあらわれたものを表4-6-1に示す。

問題行動の実体験の有無についての主効果による有意差があったのは、自転車・バイク盗みであった。自転車・バイク盗みの経験がある者の方がない者よりも友人への同調尺度得点が高かった。従って、自転車・バイクを盗んだことがある者の方が、友人への同調性が強いことが示された。

また、盗みについては交互作用がみられた。女子で盗みの実体験があると答えた者が、他の者よりも友人への同調尺度得点が高かく、盗みの経験がある女子は、友人への同調性が強いことが示された。

表4-6-1　問題行動の実体験の有無と友人への同調行動

	男子		女子		主効果・交互作用
	ない	ある	ない	ある	
自転車盗	3.44(0.87)	3.48(0.90)	3.38(0.87)	3.88(1.05)	F(1,583)=3.90*(体験)
盗み	3.50(0.87)	3.26(0.85)	3.35(0.88)	3.79(0.81)	F(1,582)=10.957**(交互作用)

*p<0.05,　**p<0.01

②問題行動に対する意識と友人への同調行動

高校生の友人への同調行動と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の「いけなさ」（「いい」「どちらでもない」「いけない」の3水準）との関連を検討するため、友人への同調行動尺度得点を従属変数とした2×3の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-6-2に示す。

問題行動の「いけなさ」の主効果による有意差があったのは、性行為の強要であった。性行為の強要を「いけない」「どちらでもない」と思っている者の方が「いい」と思っている者よりも友人への同調行動尺度得点が高く、友人への同調性が強いことが示された。

暴行、薬物・ドラッグ、重度の援助交際については、交互作用がみられた。これらの問題行動に対して「いい」と思っている女子は、他の群よりも友人への同調行動尺度得点が低く、友人への同調性が弱いことが示された。

表4-6-2　問題行動に対する意識と友人への同調行動

	男子			女子			主効果・交互作用
	いい	どちらでも	いけない	いい	どちらでも	いけない	
暴行	3.44(1.07)	3.55(0.88	3.42(0.84	2.33(0.85)	3.34(1.13)	3.42(0.86)	F(2,578)=4.04*(交互作用)
薬物	3.36(1.11)	3.66(0.74	3.44(0.84	2.38(1.34)	3.75(0.75)	3.42(0.86)	F(2,581)=3.66*(交互作用)
重援交	3.50(1.01)	3.38(0.91	3.44(0.81	2.85(1.08)	3.46(0.75)	3.43(0.88)	F(2,576)=3.41*(交互作用)
性強要	3.30(1.11)	3.82(0.69	3.44(0.86	2.83(1.43)	3.57(0.82)	3.39(0.88)	F(2,575)=3.79*(いけなさ)

*p<0.05,　**p<0.01

③問題行動に対する姿勢と友人への同調行動

高校生の友人への同調行動と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動を「とめるか」（「とめない」「どちらでもない」「とめる」の3水準）との関連を検討するため、友人への同調行動尺度得点を従属変数とした2×3の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-6-3に示す。

問題行動を「とめるか」の主効果による有意差があったのは、無免許運転と薬物・ドラッグであった。これらの問題行動をとめることについて「どちらでもない」と回答している者が他の者よりも友人への同調行動尺度得点が高く、友人への同調性が強いことが示された。

自転車窃盗については、交互作用がみられた。女子で自転車窃盗を「とめない」と回答した者が、他の群に比べて友人への同調性が強いことが推測される。

表4-6-3　問題行動に対する姿勢と友人への同調行動

	男子			女子			主効果・交互作用
	とめない	どちらでも	とめる	とめない	どちらでも	とめる	
無免許	3.47(0.90)	3.75(0.64	3.36(0.89	3.33(1.04)	3.71(0.86	3.37(0.85)	F(2,581)=5.03**(とめるか)
自転車盗	3.44(1.00)	3.60(0.90	3.42(0.80	3.95(0.72)	3.59(0.93	3.34(0.88)	F(2,581)=3.25*(交互作用)
薬物	3.28(1.16)	3.60(0.69	3.45(0.83	2.93(1.34)	3.77(0.86	3.40(0.86)	F(2,580)=3.25*(とめるか)

*p<0.05,　**p<0.01

第７項　問題行動と自己認知との関連

①問題行動の実体験の有無と自己認知

高校生の自己認知と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の実体験（「ある」「ない」の2水準）との関連を検討するため、生活感情の構造尺度のうち『自己認知の領域尺度得点』を従属変数とした2×2の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-7-1に示す。

問題行動の実体験の有無について主効果があったのは、盗み、暴行であった。これらの問題行動の実体験が「ない」者の方が、「ある」者よりも自己認知の領域尺度得点が高か

あった。従って、盗みや暴行の経験がない者の方が、肯定的な自己認知をもっていることが示された。

表4-7-1　問題行動の実体験の有無と自己認知

	男子		女子		主効果・交互作用
	ない	ある	ない	ある	
盗み	3.13(0,74)	2.89(0.67)	2.87(0.84)	2.72(0.60)	F(1,576)=4.45*(体験)
暴行	3.22(0.75)	2.91(0.68)	2.87(0.82)	2.74(0.80)	F(1,574)=6.13*(体験)

*p<0.05,　**p<0.01

②問題行動に対する意識と自己認知

高校生の自己認知と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の「いけなさ」（「いい」「どちらでもない」「いけない」の3水準）との関連を検討するため、生活感情の構造尺度のうち『自己認知の領域尺度得点』を従属変数とした2×3の2要因分散分析を行った。その結果、問題行動に対する意識による主効果はみられなかった。

③問題行動に対する姿勢と自己認知

高校生の自己認知と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動を「とめるか」（「とめない」「どちらでもない」「とめる」の3水準）との関連を検討するため、生活感情の構造尺度のうち『自己認知の領域尺度得点』を従属変数とした2×3の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-7-3に示す。

問題行動を「とめるか」の主効果による有意差があったのは、軽度の援助交際であった。軽度の援助交際を「とめる」「どちらでもない」と思っている者の方が、「とめない」と思っている者よりも自己認知の領域尺度得点が高かった。従って、友だちが軽度の援助交際をしていたときに、「とめる」「どちらでもない」と思う者の方が肯定的な自己認知であることが示された。

表4-7-3　問題行動に対する姿勢と自己認知

	男子			女子			
	とめない	どちらでも	とめる	とめない	どちらでも	とめる	主効果・交互作用
軽援交	2.93(0.77	3.05(0.62	3.19(0.74)	2.62(0.85)	2.93(0.78)	2.88(0.82)	F(2,569)=4.74**(とめるか)

*p<0.05,　**p<0.01

第８項　問題行動と現実目標との関連

①問題行動の実体験の有無と現実目標

高校生の現実目標と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の実体験（「ある」「ない」の2水準）との関連を検討するため、生活感情の構造尺度のうち『現実目標の領域尺

度得点』を従属変数とした2×2の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-8-1に示す。

問題行動の実体験の有無について主効果による有意差があった問題行動は、盗み、暴行、薬物・ドラッグの３種類であった。これらの問題行動の体験が「ない」者の方が「ある」者よりも現実目標の領域尺度得点が高かった。従って、盗みや暴行、薬物・ドラッグの経験がない者の方が、ある者よりも現実的な目標があると感じていることが示された。

表4-8-1　問題行動の実体験の有無と現実目標

	男子		女子		主効果・交互作用
	ない	ある	ない	ある	
盗み	3.37(0.73)	3.14(0.72)	3.30(0.84)	2.98(0.74)	F(1,571)=8.88**(体験)
暴行	3.44(0.78)	3.16(0.65)	3.29(0.84)	3.11(0.75)	F(1,569)=6.51*(体験)
薬物	3.34(0.73)	2.74(0.67)	3.28(0.83)	2.25(1.15)	F(1,572)=9.69**(体験)

*p<0. 05,　**p<0. 01

②問題行動に対する意識と現実目標

高校生の現実目標と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の「いけなさ」（「いい」「どちらでもない」「いけない」の3水準）との関連を検討するため、生活感情の構造尺度のうち『現実目標の領域尺度得点』を従属変数とした2×3の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-8-2に示す。

問題行動の「いけなさ」の主効果による有意差があったのは、盗み、軽度の援助交際であった。盗みについては「どちらでもない」と回答した者が他の者よりも現実目標尺度得点が低い。軽度の援助交際については、「いい」と回答した者が他の者に比べて現実目標尺度得点が低い。

従って、盗みに対して「どちらでもない」と思っている者、軽度の援助交際を「いい」と思っている者は他の者よりも、それぞれ現実的な目標があると感じていないと考えられる。

なお、薬物・ドラッグ、重度の援助交際については、交互作用がみられた。

表4-8-2　問題行動に対する意識と現実目標

	男子			女子			主効果・交互作用
	いい	どちらでも	いけない	いい	どちらでも	いけない	
盗み	3.38(0.61	2.90(0.85	3.33(0.74)	3.04(0.72)	2.67(1.00)	3.29(0.83)	F(2,570)=4.21*(いけなさ)
薬物	2.98(0.68	2.76(0.70	3.39(0.72)	3.69(0.72)	2.90(1.05)	3.27(0.83)	F(2,570)=3.48*(交互作用)
軽援交	3.14(0.83	3.37(0.60	3.42(0.71)	3.14(0.86)	3.20(0.82)	3.33(0.83)	F(2,567)=4.04*(いけなさ)
重援交	3.00(0.75	3.26(0.70	3.43(0.72)	3.43(0.97)	3.15(0.98)	3.28(0.81)	F(2,565)=3.06*(交互作用)

*p<0. 05,　**p<0. 01

③問題行動に対する姿勢と現実目標

高校生の現実目標と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動を「とめるか」（「とめない」「どちらでもない」「とめる」の3水準）との関連を検討するため、生活感情の構造尺度のうち『現実目標の領域尺度得点』を従属変数とした2×3の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-8-3に示す。

問題行動を「とめるか」の主効果による有意差があったのは、飲酒、自転車・バイク盗み、軽度の援助交際、性行為の強要の４種類の問題行動であった。これらの問題行動を「とめる」と思っている者の方が「とめない」と思っている者よりも、現実目標の領域尺度得点が高かった。従って、友だちが飲酒、自転車・バイク盗み、軽度の援助交際、性行為の強要などの問題行動をしているのを見た時に「とめる」と思っている者の方が、「とめない」と思っている者よりも、現実的な目標があると感じていることが示された。

表4-8-3　問題行動に対する姿勢と現実目標

	男子			女子			主効果・交互作用
	とめない	どちらでも	とめる	とめない	どちらでも	とめる	
飲酒	3.26(0.73	3.43(0.76	3.69(0.62	3.23(0.81)	3.28(1.02)	3.37(0.81)	F(1,571)=4.05*(とめるか)
自転車盗	3.13(0.84	3.34(0.67	3.39(0.69	2.82(1.00)	3.02(0.82)	3.33(0.81)	F(1,570)=7.43**(とめるか)
軽援交	3.13(0.81	3.26(0.67	3.47(0.68	3.01(0.92)	3.31(0.86)	3.30(0.81)	F(2,564)=6.90**(とめるか)
性強要	3.01(0.77	3.28(0.66	3.39(0.74	2.94(0.84)	3.08(0.74)	3.32(0.84)	F(1,562)=5.28**(とめるか)

*p<0.05,　**p<0.01

第９項　問題行動と理想目標との関連

①問題行動の実体験の有無と理想目標

高校生の理想目標と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の実体験（「ある」「ない」の2水準）との関連を検討するため、生活感情の構造尺度のうち『理想目標の領域尺度得点』を従属変数とした2×2の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-9-1に示す。

問題行動の実体験の有無についての主効果による有意差のあった問題行動は、盗みと薬物・ドラッグであった。飲酒と薬物・ドラッグの経験がない者の方が、ある者よりも理想目標の領域尺度得点が高かかった。従って、盗みや薬物・ドラッグの経験がない者の方が、ある者よりも自分の将来に対する理想目標をもっていると感じていることが示された。

表4-9-1　問題行動の実体験の有無と理想目標

	男子		女子		主効果・交互作用
	ない	ある	ない	ある	
盗み	3.38(0.73)	3.30(0.65)	3.45(0.81)	3.15(0.80)	F(1,578)=4.55*(体験)
薬物	3.38(0.72)	2.97(0.37)	3.43(0.81)	2.42(1.01)	F(1,579)=7.95**(体験)

*p<0.05,　**p<0.01